

第2回

「益田市総合教育会議」会議録

と き 平成27年5月13日（水） 13:30～

ところ 市役所3階 大会議室

益 田 市

0 第2回 益田市総合教育会議

招集年月日 平成27年5月13日（水）13時30分～

招 集 場 所 市役所3階 大会議室

議 事 日 程

1 あいさつ

2 議事録署名者の指名

3 議事

（1）益田市総合教育会議の運営について

4 その他

出席者

益田市 市長	山本 浩章
教 育 長	村川 修
教 育 委 員	平谷 太
教 育 委 員	水上 芳枝
教 育 委 員	渡辺 隆

出席事務局職員

教 育 部 長	川原 敏之
教育総務課長	島田 博
教育総務課長補佐	寺戸 一弘

教育委員会職員

学校教育課長	澤江 幸実
社会教育課長	大畑 伸幸
文化財課長	木原 光

会議傍聴者 2名

島田総務課長 お待たせ致しました。早速ですが第２回目の益田市総合教育会議を始めてまいりたいと思います。前回に引き続きまして進行市長お願いいたします。

山本市長 皆さんこんにちは。第２回の益田市総合教育会議の開催にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日は大変お忙しい中、教育委員会の皆様方には、この総合教育会議に出席していただき誠にありがとうございます。今回は、前回の第１回において教育に関する大綱の大まかな考え方といいますか、思いをそれぞれ述べていただきました。それを受けて、事務局において大綱の素案を作っていますので、それについて発表説明させていただき、ご意見を賜りたいと思っております。第１回の時に申し上げましたように、この大綱を策定して６月の議会にお示しすることにしております。非常にスケジュールがタイトの中でもありますので、今日はぜひ、忌憚のないご意見を積極的に述べていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。続きまして、議事録署名者の指名を行います。本日の会議につきましては、平谷委員、渡辺委員議事録署名を、後ほど署名をいただけたらと思います。続きまして議事に早速入ります。本日の議事といたしましては、教育に関する大綱の策定についてでございます。先ほど申しましたが、素案を、たたき台になるものを作っております。それについて、事務局より説明させていただき、ご意見を賜りたいと思います。ではよろしくようお願いいたします。

島田教育総務課長 それでは、教育に関する大綱についてご説明申し上げます。お手元にA3の見開きにしたパンフレットを用意しております。今までの意見交換を踏まえまして、事務局としてのたたき台でございます。まずこちらを作る課程としまして、市長の方からありました重点項目として定めたいということで、ふるさと教育の推進、それからキャリア教育・起業家教育の推進、学力の向上、放課後のあり方等子育て支援部局と一体となった施策、文化芸術の推進、というものがございました。それに加えまして前回の会議の中で、情報リテラシーや情報モラルについての教育、そういうものが項目として挙げられていたところです。それをどうこの中に盛り込んでいくかということを考えたわけですが、前回の皆様方のご意見の中で、特に印象に残っているキーワードといたしまして、生涯にわたる生涯教育というもの、そして、保育園・幼稚園、小・中学校、そして高校と連携したふるさと教育、それから子育て世代への情報提供のあり方など、分かりやすいものとして提示するということなどがご意見としていただいております。そして、皆様方共通のご意見といたしまして、この教育大綱ですけども、教育制度が変わりまして、同時期に様々な自治体が策定いたしますので、そ

の策定する内容について、さほど差が出ないのではないか。その中で益田市として光るもの、特色がある内容で作っていただきたいという要望がありました。具体的な内容といたしましては、益田の子ども達は何らかの形で高等教育を受ける等、一旦外に出ることがあると思いますが、外に出てもまたこの益田に帰って来たくくなるような教育。そういうものをキーワードとして、「ひとが育つまち益田」として位置付けたようなものとして考えていただきたい、というご意見をいただいております。それらを踏まえて何か分かりやすい形、それがどういうものが良いのかということで、事務局で練ってみたのですが、1枚開いたところですが、鮎の絵が載っております。この一連の教育というものを、鮎の一生に例えまして、鮎が産卵するためには、それだけ水質保全がされた川、そういう産卵に適した環境を常に保つ必要があります。そこが、子ども達が育つ上に必要な学力を養う場面としての環境整備、そういうものを踏まえまして子ども達を育てていく。やがて子ども達が、鮎が海に出ていくように一旦都会に出たとしても、鮎が遡上して戻ってくるように、この益田に帰って来たくくなるような環境づくり、遡上したくなるような環境整備としてふるさとの魅力を常に伝えていく。そういうものを位置付けながら、更にその魅力に応じて帰って来た後に、その力を活かしていけるような環境として、キャリア教育や起業家教育をして、この地で自ら地域をリードしていくような子ども達として育っていききたい。その流れがぐるぐる回って次の世代にまた繋いで同じようなサイクルを辿っていく、そういうものをイメージしました。この鮎というものが市の魚としての位置付けもありますので、鮎の一生に例えた教育大綱というものをイメージとして考えてみました。これをそれぞれ結んでいく中で、最終的に大綱として位置付けるものですが、まず子ども達がこの益田で育つということ、そして再び益田に帰って活躍できるということ、この2つを大きく分けまして、左のページにあります、「子ども達が益田で学び育むための教育環境整備」、「子ども達がふるさと益田で活躍するための環境整備」、大きくこの2つに分けまして項目を繋いでおります。合計6つの項目として今まで挙がっていましたが、共通する部分を繋ぎまして、とりあえず事務局としては4つにまとめております。1つハード的な子ども達が育つ段階での目標としましては、学力向上の環境整備、そして教育と子育て支援の一本化、この2つに分けまして、遡上した後、益田に戻ってくるというキーワードに載せる内容として、ふるさと教育の推進、キャリア・起業家教育というものを位置付けて、項目として4つに絞り込んでいます。元々あった中で、文化芸術というものがこの中で消えているんですが、それにつきましては、ふるさ

と教育の中で、子ども達自身に文化や芸術の魅力を、そういう力を養っていただくということもありますが、常に外に向けて益田の文化芸術を情報発信することで、子ども達が外に出た後でも、益田市の魅力を常を感じる事が出来るような情報発信としての位置付け、ふるさと教育の中に含まれるのではないかとということで、ふるさと教育の方に位置付けております。そして、情報のリテラシーや情報モラルに関しては、学力向上の環境整備、こちらが、ただ学ぶだけでなく、子ども達が安心して安全な環境での学習を進めるという中で、情報のいろいろな有害なものからも自ら守れるような力を養うということで、この中に位置付けられるのではないかとということで、この中に含むというふうに考えております。そして、4つのキーワードをさらに1つに結ぶのが、全体を結ぶものとして一番上に位置付けておりますが、「ひとが育つまち益田」ということで大きく打ち出しております。表紙に返っていただきまして、見出しが、益田市「教育に関する大綱」というように大きい見出しになってくるわけですが、今回益田市が策定する大綱の大きな目的としては何か、と考えた時に、子ども達が益田で学び育まれそして再び戻って来れるように、ということが強く意見交換されていまして、そこが明確に出るような形でのサブタイトルの的なもので、「益田で学び育まれた子ども達が、ふるさと益田で活躍するために」ということで大きく打ち出しております。この文言については、事務局で勝手にといいますか、思いをただ綴っているだけですので、今回の皆様の意見交換の中で軸など方向性等を定めていただけたらと思います。一番最後のページなのですが、こちらは今まで検討した中で、教育に関する大綱ですが、第5次益田市総合振興計画、益田市教育ビジョン、益田市社会教育推進計画、今まで既に策定されている計画がベースになって、その中から中心的に今後何をするかというものを、絞り出したような形を確認しておりますので、その位置付けを明らかにするためにここに載せてあります。その下につきましては、重点項目に具体的にどのような施策が出てくるのかということで、主な施策として一覧を載せてあります。ここは、まだ各課から意見をいただいている段階ですので、具体的にはいくつかの事業がここにぶら下がってくると考えております。お手元のA4の横書きで、教育に関する大綱重点項目に位置付けられる施策等ということで資料を載せておりますが、ここに載りきれてないものをこちらの方にお示ししております。事務局といたしましては、今までのご意見を踏まえて、ここまでの段階での案としてまとめております。

山本市長　　本日、大綱の素案をお示しいたしました。ぜひ忌憚のないご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。

渡辺委員 前回も生涯学習のまちというのを触れさせてもらったのですが、特に住んで良かったと感じるまち、住みたいまち益田市というところを強調していきたいという思いがあります。そんなまちの背景には、市民一人ひとりが大事にされている、一人ひとりが主役になれるように、そういうことが感じられることではないかと思います。そういう環境の中には、全世代の人が学べる機会がある、学習から次のステップに進める環境があるというふうに私は思います。市長は人口拡大施策を進められておられます。このような環境づくりは、市長の施政構想に合致するような気がします。私はここに出ている、特に若者といいますが子ども達を育てるところが強く出ていますが、高齢者もやっぱり大事にしていかななくてはと思います。高齢者の知恵はすごいものがありますから、私達はそういった高齢者の知恵をいろいろ教えていただきながらこうして生きていかれると思います。ですから、益田市に住む以上は、益田市全世代の人が大事にされるというのを、私は強調して欲しいなと思います。後ろにもありますが、子どもが育つまち益田市なんです、私は、ひとを育てるまちというようになところにして欲しいなと、そういう気持ちがあるんです。高齢者のことを先ほど申しましたが、高齢期を迎えるときには、公民館等で学習を進めることによって、高齢期を豊かに過ごせる一つのきっかけになる、というふうに私は認識しております。全世代にわたって益田市は皆さん一人ひとりを大事にするよ、というところをどこかに位置付けられるものなら嬉しいと思います。

山本市長 生涯学習、生涯教育に関する視点というのは、前回も渡辺委員さんから申し出があったところです。それを受けて事務局で今回、どういう検討があってこういう原案を作った、といういきさつといいますか経緯について説明をしてもらいたいと思いますが、私の方で聞いているところを説明させていただきたいと思います。確かに渡辺委員さん、前回生涯教育、子ども達から高齢者まで幅広い範囲に対することを伺ったところです。それは確かに大切な視点で、益田市の教育、あるいは教育を含めたまちづくりを進める上で、抜かしてはならない観点なんですけども、今回大綱の位置付けを、まず教育もしくは教育委員会が所管するもの、その全般を幅広くというよりは、既に教育ビジョンなり社会教育推進計画があり、その上に総合振興計画がある中で、それよりも期間が短い、ある意味市長の任期期間に該当するのではないかという話もありましたが、その中で特に私として、特に重要視したいと思っている次世代育成ということに、今回の大綱については特化といいますか、そこを強く色濃く出したいという思いがありました。それを受けて今回あえて、子ども達がすくすく育って、そしていずれ

は益田に帰ってきて益田で活躍する、そこを特に市長部局と教育委員会で連携をして進めていきたい、という思いで今回大綱の素案を示させていただいたところです。今日はまだ2回ですので、今日いただいたご意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

水上委員 最初、これを見た時に想像以上に字が多いなと思ったんです。私はとにかく分かりやすく受け入れられるようなものであって欲しいと願っていて、第一印象はとにかく字が多く、てんこ盛りだなというイメージがありました。もれなく載せようというような欲張り感がちょっと出てるかなと感じましたが、そこがある意味の狙いであったのならそれで良いし、省けるのなら何かスッキリ感があった方が良いのかなって。でもこの鮎の一生を例えたというのはなかなか分かりやすく、そういう部分ではなるほどなということを感じました。それともう一つは、向かって左側のページの4種類の色分けがありますよね、内容的に。それをどうにか、こちら側で鮎の遡上に例えたがための3種類になったのかちょっと分かりかねるんですが、あそこのあたりが何か一体感があるとさらにスーッと、視覚で見た感じでぱっと入りやすいのではないかなと。それでこのブルーはブルー、オレンジはオレンジで、といっても色が違うし、育つための環境整備のところは左側の内容が入っているということで、あのあたりがアンバランスというか、そういうような印象を受けました。それと内容的に、今回市長が子ども達に絞った内容でということなんですが、読んでて何回か読むうちに、やっぱり人間、子ども達が学習をしたり、戻ってここで働いたりというのはすごく大事なんです、やっぱり人間として人としての、心の豊さとか何か、そういう一言っていうのが全然見受けられないんで、そういうところがちらっとあると、人が育つ、人ですから学習をするだけとか、戻って地域を支える為に自分が何かするだけではなくて、心の豊かさがないと、やっぱり人として人間力がないと、更にこの益田が発展しないというのがあって、ちょっとそういう面では、温か味が欠けるかな、というそういう気持ちの部分が含まれてないかな、というような感じを受けました。

島田教育総務課長 色につきましては、これはパソコンで自動的に振られた色で、今のところ全く意味合いはありませんので、十分これからの審議の中で変えていきたいと思っています。それから鮎の一生という絵ですが、フリーのイラストなんです、鮎の一生というところは、フリーなのかまだ確認が出来ていません。もし、この鮎の一生で辿ったもので策定をご確認いただきましたら、これを実際に手書きで書ける、そういう能力を持った職員がおりますので、そういうものに書き変えたもので著作権の問題無い形で組み替えようとは考えております。

水上委員　私は、きっと色で何か考えがあるのだろうと思って、何回も色と色を合わせてみて、ちょっと思いました。確かにここの部分だけがいかに機械的だなあというのと、もちろん字が小さいのと、もしこういうのを載せるのなら字の大きさも含めて工夫が必要だと思いました。

山本市長　確かに、結構カラフルに出来ていますので、余計に色の位置付けというか、それで識別してしまうところがあると思いますので、その辺の配慮も必要かと思います。それから、心の豊かさとかそういった要素についても、折角ご意見いただきましたので、踏まえて検討させていただきたいと思います。

渡辺委員　鮎の絵を見ながらお話が出ましたが、私はこの背景というのが大事だと思います。鮎が戻って来ないという１つの課題、そこで地域の人達が、川が汚れていることに気が付く、そして川を大事にするために、川を浄化していく、農薬は低農薬にするとか、地域住民の人達がいろいろ協働といいますか、共に働くこととか、そういうことがあったと思うんですよ。環境対策を皆でやってきたから、清流日本一になったんだ、というところですよ。そういう背景というのが大事。そのことによって、鮎が帰ってくることが出来るようになったという捉え方、そういうようなところまで考えていくのが良いのではないかと私は思います。

山本市長　今、おっしゃったのは、鮎を例えに使っていますので、鮎が戻ってくるような清流をつくりあげた、住民の部分ということを、今回教育の施策をどう充実していくか、子どもが帰る川にしていこうための努力というものはどういうものか、ということをよく考えた上で、その精神を盛り込むべきだ、というお考えということですね。そのエッセンスのようなものを盛り込むということを検討したいと思います。

山本市長　一通りご意見いただきましたが、その他にもございましたらお願いいたします。

平谷委員　一番後ろのところがありますが、大綱の中身がこの３つの、これまでも取り込まれている中身を集約という絵なんですけど、これをちょっと単純に見ると、このいずれかが、有限と思うんですが、期限が来た時にこの大綱が変わるのかな、とちょっと思うのですが。この師徒関係としても混乱するのですが、大綱があってそれぞれがあるのか、それぞれのものがあって大綱が出てくるのか、というのが分からなくて、そういうものも考えていかないと、この効力といいますか、大綱がどういった効力を持っているのか、ということで施策の重みが変わってくると思っていますので、その辺りをちょっと聞きたいと思いました。

島田教育総務課長　イメージといたしましては、前回お示ししたものと上下がひっくり返っていますが、大きな基盤としましては、第５次益田市総合振興計

画がございます。それを踏まえた中で、教育に特化した計画として、益田市教育ビジョン、益田市社会教育推進計画がそれぞれ位置付けられております。大元になる総合振興計画、さらに教育の特化した計画、その中から、今後少し短いスパンの中で重点的にやっていく項目を、更に絞り込んだというようなイメージになりますので、大綱があってそれぞれの計画があるのではなくて、計画の中からさらに絞り込んだものというような位置付けのイメージでおります。

平谷委員　そうしましたら、強みとしましては、この各教育ビジョンであったり振興計画、そちらの方が上位になるということですか。

島田教育総務課長　上位といいますか、それぞれが横並び、同列な意味合いを持っているということです。

平谷委員　別の質問をします。例えば教育ビジョンがあと1年で終了になります。そういった時には、このところいうのは見直しがかかるんですか、大綱というのは。これは大綱として取り決めたら、その期間があればその中の効力となるのですか。

島田教育総務課長　それぞれ、総合振興計画、教育ビジョン、教育振興計画はそれぞれ10年という計画期間になっております。大綱につきましては、具体的な策定年数というものがございません。イメージとしては市長の任期により、市長が策定するものというのがありますので、それを解釈した中で、市長の任期ごとに1つのイメージとしては位置付けられるのではないかというふうに、前回の会議の中でも確認したところですが、ですから、その4年というもの、そして10年というものに差がありますが、確かにそれぞれの計画期間が短くなった後、大綱の方が長くなる時はどうするかという問題が出てくると思いますが、1つは市長の任期ごとに変えていく、といいますか、その時にそれぞれ3つの計画の中から今後4年間に重点的にやるものは何か、というものを位置付ける思いでおります。そのずれるところは確かにおっしゃるような意味合いの問題が出てくるかもしれませんが、どうしても計画期間の間にずれがありますので、いずれの計画を立てるにしても、そういう問題は生じるところと考えております。

大畑社会教育課長　社会教育の大畑です。市長さんは、非常に教育行政が継続的に計画をして10年ごとに見直しをしようという計画です。その中で、継続的にずっといろんな世代に関する教育のことについて書いてあるのが、この2つの計画であると。その中で、特にこの大綱で重点的に、その継続性を大事にしながらも、その中で特に力を入れて、特に市長部局と連携してやりたいという意味で、今回選ばれたになった項目であろうと、事務局は思っておりますので、教育行政は、キチンと継続していると、その中で特にこの期においては、ここにしっかり重点を置き

たいというのが大綱ということで、この前市長さんが次世代についてのことを特に強調してあげられたと、いうふうに私達は考えながら一緒に整理させていただいたところです。

平谷委員 分かりました。それと、こういうところから出ているということになりますと、もし、市長の方がお変わりになった時には、この３つのものというのは、前市長の方、前々市長の方が策定の時に関わられたという時に、いや、僕はちょっと違うことを織り交ぜたいんだ、ということになりましたら、こういう切り口だけでは難しいかなと思ひまして、そこについては何かお考えですか。

山本市長 私の方から答えさせていただきます。例えば、総合振興計画や教育ビジョンも社会教育推進計画も１０年というスパンですので、実際のところ市長の任期でいえば、２期を超える３期に跨ぐようなものです。これはその時の市長の考え方によりまして、例えば総合振興計画についても、新しくなられた時に全面的に見直す、ということも可能は可能だろうと思います。例えば教育ビジョン、社会教育推進計画も策定されたのは私の任期中ですけども、この検討というのはその以前から始まっておりまして。私としては、総合振興計画についても教育の２つの計画についても、市政もしくは教育方針の継続の重要性というところから、引き続き受け継いで策定を進めたという思いであります。もっと、根本的にいうと計画の中のそれぞれの施策の推進というのは、年毎の予算編成、事業計画、それで実施する、しない、もしくは実施の方向性が軌道修正される、ということになっていくと思います。それぞれ計画というのは、重要問題もあるのですが、この中で具体的に相互に矛盾が生じるとか、そういうことがあるというよりは、大きな方向性、目指す目標、それを指し示すものと思っております。そうした中で、先ほど大畑課長が答弁しましたように、既にある３つの計画の中の内、特に重点を決めて進めたい、尚且つ、市長部局と教育委員会が連携して取組むべきものは何かを、今回大綱の中に抜き出してお示ししたというものであります。もう一つ言いますと、教育ビジョンと社会教育推進計画は、策定自体は教育委員会になります、総合振興計画はおそらく教育委員会を含めた益田市役所、オール市役所になると思います。そもそも策定自体といいますか、カバーする範囲が違ってくるわけですが、大綱については市長部局と教育委員会が連携して進めるもの、これを今回市長が定めると、というような位置付けで、そういうことがあって今回教育委員会の皆さんと市長が調整・協議するこの総合教育会議の中で話し合いをする、ということになります。なかなか難しいですけども、このような考えであります。

平谷委員 やはり、長きに渡ってといたしますか、教育の結果というのは、近く

を図った施策というのは、あまりうまくいかないというイメージがありまして、やっぱり、長きにおいて遠くを図っていかないといけないと思うので、その時、もし市長が変わられて、そこで急変するというところでころころ変わるというのも、非常にマイナスの面もあるかと思いますが、また逆に、時代というのはものすごい流れが速いものですので、その時に要求されるものというのは、教育においてもどんどん変わっていると思います。特に ICT とか、そういったものが出てきますと、すごく子どもさんにとっても大変な時代になっていくと思うんですけど、その中でですね、こういう体系をキチンと定めて考え方を統一しておくべきかなと思い、質問させていただきました。あと、「ひとが育つまち益田」これはずっと継続的なメッセージで、ここに載っているのでしょうか。

山本市長　これはですね、実は平成 27 年度の施政方針の中で私が総合戦略の策定の一つの指針として掲げた、その中に込めたメッセージです。

平谷委員　あとこの下にですね、「子ども達が益田で学び育むための教育環境整備」と、それから右側がですね「益田で活躍するための環境整備」とあるんですけど、教育環境の整備と左にあって右側は環境の整備で終わってるんですけど、どういう環境なのかなと、これはちょっと愚問ではありますが思ったというところがあります。あとやはり教育というときよく耳にするのは知育・徳育・体育という 3 つのものが非常に重要視されているんですけど、先ほど水上委員もおっしゃいましたその徳の部分、特に重点を置くべきポイント、益田の人という清流のごとく清らかな子どもさんが多いとかですね、そういう意味での徳の部分、それと体ですね、これも喫緊の課題だと思うんですけど、そういったものがもう少し反映されることも必要なんじゃないかなと感じたということです。

山本市長　貴重なご意見ありがとうございます。

渡辺委員　私はね、市長さんの任期中に特に力を入れていく物に関してはこの大綱を作るという風な捉え方で聞きましたが、実はですね、宮崎県の諸塚村という林業の盛んな町があるんですが、その町というのは公民館活動が明治の時代からものすごく活発で、その時にこの町はどうして経済的にやっていかれるのかということを考えた時に、やっぱりこの町というのはすごく山も厳しいし、林業でやっていくんだというその考え方を明治の頃の村長さんから、今日に至るまでの村長さんが同じ考えを持って守って林業を振興していくということで、1ha あたり 100m の林道を付けているというところで、普通間伐も切り捨て間伐等でお金にはならなかった時代に、そういうものを出荷して林業の人達が生活ができる体制づくりというのができていたという背景があるん

ですよ。そのようにですね、一つの大綱も時の市長さんが変わればこれも変わるというような認識でなくて、やっぱり最初の市長さんがこうした大綱を定めて、この大綱が 100 年も続いていくというようなものが私は欲しいと思います。

山本市長 すいません、ちょっと語弊があったかもしれませんが、大綱を定める主体が市長であると、当然私もこれは自分の任期があと 1 年ちょっとですので、あと 1 年ちょっとのことだけを考えて作るんだというつもりで策定をしたつもりはないんですが、ただそれこそ違う首長さんになられてどう考えるかというのは、私には一切コントロール出来ないところであります。それも含めて選挙で選ばれる者が市長であり、もしくは議員であるわけです。それは市民の総意を反映する選挙という過程で選ばれますので、これは最大限に最も尊重されるべきものであると思われまふ。一方でそれで左右されてはいけないものが本来的教育であって、そのために教育委員会というのが市長部局と離れたところに独立した形であるわけです。そこでは政治的な中立性であったり教育の内容も本来政治的に左右されてはならないものであったり、これは教育委員会が独立性を保ちながら執行されるということだと思います。それでこの大綱というのは、そうした独立性を持った教育委員会と、ある意味不可視的に民意を反映させた形で、一定の政治的な色を持つことが前提としてある市長というものが協議・調整をして作るものということで、どうしても妥協的なものにならざるを得ないものだと思っています。それ以外に既に教育ビジョン、社会教育推進計画がありますので、これを当然継続して進めていくと、その上でこの大綱をどういう意味合いで定めるのか、これは今までのビジョンなり推進計画と同じ考えではなくて、やはり今回法律で決められた以上は協議・調整をして、二者が作っていくという色合い、そう考えた時に、先ほど申し上げたように、特に教育の政策の中で力点を置きたいもの、それは私の思いを受けていきたいものを述べさせていただいて、そして教育委員会の皆さんと協議・調整を尽くしていくんだという思いでいるわけです。したがって決して短期的なものだけを追及するわけではありませぬし、かといって個人的な色合いを極端に出していこうとも思わない、という中で今回提示したのが大綱案ということです。

渡辺委員 十分に理解しました。

村川教育長 今の議論なんかも本当に初めて作る産みの苦しみといひますか、やっぱりそもそものものを大切にして決まていく過程かなと思ひてまして、それと大切なことで教育の役目の体系というような言葉はそのものだろうと思ひてまして、ただ担ていくものはその時代その

時代の直面した我々が当面の政策も追っていかねばならない、まさにそれがこれだろうと思っていまして、やはり地方公共団体として教育をどうするんだという時に教育委員会が主となって、それなら今回合作というか、やはり協議・調整を尽くして一つのものにしていこうというように、大切なというか言葉が悪いですけど面白い一つの試みだろうと思っていて、そこでどういう前向きなものが出ていくかはまた評価されていってまた見直していくということなので、これは出来るだけ議論を尽くしたいなと思っていまして、非常に良いことだろうと思っています。一つ私確認をしたいんですが、この大綱の中にはどういう人を作るかということまでは謳ってないんですが、あれはやはり元々教育ビジョンでありましたけど、目指す子ども像の「ふるさとを愛情を持って語り、地球的視野に立って社会貢献する自立した子ども」ですけど、これでいくということで、これを変えると変な事になります、これが前提で、子どもを育てる環境づくり、あるいは育った後の働き場とか将来的なまちづくりと繋がっていくということで、その辺を大綱の中で言うのか言わないのか、そこら辺が難しいところがあるなと思いました。1つには渡辺委員さんが最初に言われた高齢者、生涯教育という高齢者を大切にすること、こういう子育ての中に非常に大きな役割を本来持っていて、今までの歴史的にあったものが核家族になって、少しそういう役割が失われたというか疎かになってきて、改めてその役割が必要な時代になっているとも言われているわけで、そういうのを再構築するのもまた時代でもあらうと思っていまして、そういう意味で高齢者の持っている経験なり知識をどう絡めていくか、またそれを大切にすることによって子ども達が高齢者を尊敬したり大切にするような思いやりのある子育てにも繋がっていく。実際絡んでしまうんですが、絡めていくのが今回の一つの役割なんだろうなと思っていまして、その辺を大綱の中で、あるいは個々の施策の中で出していくのか悩ましいところを感じているところです。

山本市長　　今のを受けて申し上げますと、確かに教育ビジョンの目指す子ども像、これは非常に大きなもので、それこそ動かし難いものだと思っています。この教育ビジョンを当然の前提として今回教育大綱を定めるものですので、それは改めてまたこの大綱に挙げるのか、それともこれは前提としてその上に、その上というか上下関係のように聞こえますけども、これを前提として今回大綱を定めるんだということで置くのか、それもちよっと考えどころかなとは思ってるんです。そもそもが教育ビジョン、社会教育推進計画を前提にして今回この大綱を定めるということは、実は施政方針でも述べているところなんですね。私としては、それはもう前提であって、その上で何を市長部局と教育委

員会が連携して協議を進めていくかというところを今回大綱で定めたいという思いがあったわけです。あまりこの大綱というものが大きく出過ぎると、益田市の教育はこうだ、というものを今回頭に出すんですよというふうに受け止められると、たったこれだけなのとかいうことになってしまう。私はそうでなくて、常に大きなものがあるんだと、この上で更に今回進めるのがこの大綱なんですよという思いで、この位置付けで今回は大綱をつくりたいと思っていますところです。

渡辺委員　私も思いは同じなんです。言ってみれば子は親の背中を見て育つということもありますしね。私がヨーロッパのドイツに行った時には、ドイツの田舎の子どもは都会で勉強をしながら、勉強が終わったらふるさとの田舎に帰って、そしてそこで親が持っているものはもちろんですけど、新たな生活の基盤を見つけていくということで、ほとんどの子どもは田舎にまた帰ってくるんだというお話を聞いたことがあるんですね。益田市もこれから育つまちという形で子ども達が都会で勉強して、益田に帰って、益田で益田の発展のために自分は協力して自分の責務を果たすんだというような気持ちになるという、将来的にはそういうようなまちづくりや子育てをしていきたいなという思いがありますね。

山本市長　よく分かります。

平谷委員　今のお話にも関係すると思うんですけど、せっかく教育委員会という独立した組織と市長部局との連携といいますか、図られるという中で、この別紙いただきました、具体的にどちらの担当かが例えば施策等ということで書かれているんですが、もっとこの中でも学校教育課と文化財課というのが現状の教育委員会に直結した部門であります。市長部局といいますか、もっと周りの方々が関係していくというのは良い機会ではないかなと思っていまして、範囲を広げすぎると大変という思いはあると思うんですけど、やはり連携づけていくという事は必要だろうなと思ったんです。それはこのページの一番後ろのところにありますが、大綱の項目の次に重点項目というのがそれぞれあげられていますが、その重点項目の、教育と子育て支援の一体化と書いてありますが、この、例えば子育て支援までというのはもう少し小分類ではないかと思うのですが、まずは子育てというところを眺めていくと、先ほど渡辺委員もおっしゃいましたが、実は子どもを育てているのは親なので、その親からどう引き継いでいくかという、親を見つめるような施策が必要ではないかとか、やっぱりいろいろ具体的なところにすっと直ぐ落としちゃうと、小さい施策今取組んでいる狭い施策になると思います。実は子どもを育てるという事は、学び舎だけで出来るものではなく、行政のところだけで出来るものではなくて、実は間

近に親というものがあって、そういうところにもっと刺激を与えるような物も必要ではないかと思います。と、重点項目は果たして、もう具体的な項目になっているのではないかな、という気がしております。だから、もう少し大きな形で眺めてみると、もう少しやれる事というのが出てくるのでは。やれる事はたくさん出てくるんですけど、その中でもこれはやろう、ここを始終選択するのは必要だろうと。何でもかんでもやろうというと、今やっている事を羅列する事になりますので、それはもう少し市長の思いというのを、この中でもここは力を入れていこう、というような中身にというのにも必要ではないかと思います。

山本市長　大綱のそもそものイメージとしては、今回初めて法律で策定する事が義務付けられたもので、おそらく各自治体において捉え方がまちまちだと思います。それこそ、A4の紙1枚どころか3項目箇条書きと。これをもって大綱という自治体もあれば、分厚い冊子に、今回教育ビジョン、社会教育振興計画を含めて、もしくは総合振興計画を含めて作るという自治体もあると思います。今は創生期なので、10年も経てばだんだん集約されてきて、各自治体似かよってくると思いますが、今回について私としては、教育委員会と市長部局が特に重点をいれて進めていきたい施策、それはどういうものかと。それは大きくくりすると、この4つの重点項目なんです。という事を伝えたいというのが今回の大綱のイメージなんです。従って、教育と子育て支援の一体化の中の子育て支援というのは、いわゆる教育委員会以外の部局が子どもの育成に関する事で取組んで来た事、これは特に益田市で言えば福祉環境部の子育て支援課が担当しています。ここと教育委員会とは当然部局が違いますので、今まで連携というのが必ずしも十分ではない円滑ではない部分が合った訳ですけども、それをより連携を深めて施策一体化して進めていきたいという思いが、この教育と子育て支援の一体化というところです。ですから、子育てそのものというところではなくて、簡単に言うと教育委員会の学校教育課、社会教育課それから子育て支援課、ここがもっともっと連携して強調して協議して、同じ子どもという世代を、どうするのがより良い育成に繋がるかを考えていこうという風な意味合いに捉えていただけたらと思います。

平谷委員　分かりました。選択をされてこの4項目でということですね。

山本市長　そうですね。文言についてはまだまだ考えるところがあるかなと思っています。特にその裏の大綱項目2つありますね。さっきもご意見いただきましたけども、教育環境整備とか環境整備とかの書き方ですが、もう少しこなれたというか、柔らかい表現で出来る余地があるかなと思っています。大まかなイメージとしては、一応自分の

中で整理した上で作っているということです。

平谷委員 それから A4 で 1 枚拝見しました。この元には、今回大綱策定に際しまして取組む項目というのは、これからいろいろまた更に付加していくというイメージなんでしょうか。

島田教育総務課長 ここは今現在ある施策を載せておりますので、今後必要であれば新しい施策、事業等追加されるというイメージでおります。

水上委員 母親を経験している、子育てが終わりつつありますけど、この中で重点項目の中で平谷委員さんは言われましたが、子育て支援という言葉は、すごく母親、小さい子どもを幼稚園、保育所へ行かしてる時代から、小学校へあがって学校から早く帰ったらどうしようとか、夏休みになったらどうしようかというようなところが、最近は特にその辺の支援が充実しているというのは、私達がある程度子育てが一段落した世代から言うと、今の特に働くお母さん達のケアがすごく行き届いているなあというのを感じる、ていう話が良く出るのですが、そういった面ですと、きっと若い子育て世代の方には、子育て支援という言葉は、ああ何か私達のことを考えてくれているんだというイメージを持つ言葉というか、具体的に気持ちの中に入りやすい言葉だと思うので、何かどうしてもかたぐるしい言葉が多い中で、こういう表現というのは、ちょっとずつ入れていった方が良いんじゃないかなとは感じます。それと、今から多分たくさんあげられてくるんですけど、その中で、もちろん全部この中に載せることは無理だと思いますが、やっぱり分かりやすい内容のことを選んで、主な施策等を載せるのであれば載せて、市役所全体でこういう課いろんな課で、支援というか施策があるというのは、別紙でやるか何かしないと、さっきも言いましたが、字が多すぎてどれも入って来ないような内容になると思いますので、その辺はちょっとセレクトの必要があると思います。

山本市長 この別紙は、どういう位置付けでしょうか、今回の会議の中では。
島田教育総務課長 この中で検討がしやすいようにと、あくまでも一般的にお示しするのは A3 で、全部を載せる訳にはいけませんので、こういうものがありますという情報提供という意味合いです。

山本市長 今日の 2 回目の会議の中で、少しでもご理解して、議論が具体的にイメージしていただけるようにということです。

平谷委員 今回大綱に基づいていろんな具体的な施策が出てくるということなんですけど、こちらの方でも毎年といいますか施策がいろいろ出て、今ここに出ているのはこの中から出て来た施策だと思いますが、今回の大綱によって施策を改めて出していくのか、そうではないのですかね。あくまでもこのそれぞれの 3 つのビジョンであるとか振興計画とかこの計画、の中から施策がまた増えていくというイメージなのでし

ようか。

島田教育総務課長

この具体的な施策というのは、もちろん振興計画、教育ビジョン、社会教育振興計画そこに跨いでいますというか、それぞれに共通すること業だと思います。今回の大綱に位置付けられる施策というのは、その中から更に絞り込んだといえますか、全体の事業は総合振興計画に基づく事業として構成される訳ですが、その中から学校教育に関するいろいろなものが教育ビジョン、社会教育に関するものが社会教育振興計画がありまして、その中で更に重点的に絞って今回子ども達が益田に帰って来れる環境づくりということに絞ってくると、また更にそこを大きな教育という事業の中から絞り込んだ幾つかの事業がここに結び込まれてくるというイメージでいます。

平谷委員

そうなりますと、大綱を作ってそれで何が変わるのでしょうかというように思ってしまうのですが。ただ格好をつけるために寄せ集めたよ、っていうように感じてしまって、力強さが一気に無くなるなと思ったんですが。

大畑社会教育課長

特に子育て支援のところを私が関係してしまして去年からやっています、例えば子育て支援課が放課後児童クラブの事業をしておられます。社会教育もボランティアハウスとか地域で子ども達の関わる方の研修をしておりますので、そこを大綱があることによって、今ある事業をしっかり有機的に繋げなさいということが今年出来ることだろうと思っています。そこをしっかりと位置付ける為に、この大綱によって私達は子育て支援課と社会教育課がもっとしっかりと話して、今ある事業を有機的にもっともっとより良くしなさい、という私は強い市長からのメッセージだと受取ることにしたいです。その結果、来年度の事業としては違う名前になるかもしれないということです。今年当初あった計画どおりではなく、もっと工夫しなさいよという風に今年はやらないと、もう動いていますので、事業名が確定しておりますが、今年度は特にその中で定めた重点項目にかかる上がった事業は、去年思ったとおりですのではないんですよ、というお示しとして私達は受け取り、特に他部局と連携しているところはしっかり今年度から結果を出せよということを私達は思いながら、今年事業推進することになるだろうと思っています。その結果来年度は違う事業名が変わるかもしれないと予想しているところです。

平谷委員

ただごく稀なケースではないかなと感じておりまして、例えばこの中の産業支援センター、私は企業に属しておりますが、こういうところで取り込まれることが、これがどう教育委員会と繋がってですね密接にやりとりをして、そのPDCAを回していくのかなあということなんです。だから本来であれば、これだけ市長の思いで大綱が出来上が

っていくからには、教育委員会と市長部局が密接に関係して方向性が出て、またこの取り組みが活性化するにはどうすれば良いか。例えば、増やすばかりではなくて絞り込んでも良い訳ですよ。いや10項目実はあるんだ、じゃあ5つにしましょう。ただお互いに取り組んで効果的なものを打ち出していきましょうでも良いと思うんですよ。だからこちらで取り組んでいる項目を引き継ぐんですよというよりか、やはりこういう機会だからこそ、増やすことばかりではなくて絞り込んで重点的にやっていく、ただやる主体は連携をしていく。ということで効果を生み出していくのが1つの目的ではないかなと思っています。

大畑社会教育課長

平谷委員が言われるとおり、キャリア教育につきましても市長はこういう強い思いがありますので、今来年度に向けてですね、学校教育、社会教育、産業支援センター、それから人口拡大課等々中心となって、具体的な子ども達に出来る教育の計画アクションプランづくりをしておりますので、もちろんこの指示の元更にこれを変えていくようにしっかりやっていこうと声をかけて今策定が始まったところです。ので、委員さんがおっしゃったとおり来年度は総合的な事業名になるかもしれませんが、具体的にしっかり動ける体制づくりは、この大綱のおかげで一段とやりやすくなったと思っていますところです。

山本市長

それとちょっと補足ですが、キャリア教育、起業家教育の推進のところは、非常に私も思いを持っているところなんです。どういう問題意識かということ、特に高校教育については、1つは市の教育委員会の管轄外ということで、なかなか踏み込みづらかったというところがあります。これをあえて今回は、高校に対しても市の方からアプローチしていこうというのを既に始めております。ややもするとこれまでの高校教育が、出来れば学力を高めて、ここまでは良いんですが、そして優れた企業、優れた大学に入って、そこで外の世界で活躍するのをともすれば良しとして来たところがあると思います。でもやはりそれではいけないんだ、せっかく生み出した育てあげた子どもを、もう1回今度益田に帰って来て、中学校卒業して直ぐでなくて良い、大学を卒業して直ぐでなくても良いかもしれないけども、何時か益田に帰って来て活躍して欲しい、こういう思いを持って小中高も教育に取り組んで欲しいという思いであります。これは必ずしも私共だけではなくて高校側も少しずつそういう意識が芽生えて来て、強まって来ていると思います。具体的に言うと益田高校さんなんかも、子どもを教育して外の世界に送り出す。その結果益田の人口も減ってくる。そうすると志願者も志望者も減ってくる。そうすると高校教育の基盤そのものも揺らいでくる。従ってやはり子ども達を帰らせる教育をしないと益田高校の未来もどうか、という風な危機意識も持っていらっしゃると伺

っております。従って高校との連携というのは、今は進めやすくなってるし、いろんなことをしないといけないと思っております。これはまさに産業支援センターが今までどっちかという、教育委員会とは離れてこういうことの接点があった訳ですが、産業支援センターと高校の接点を更に深めて、教育委員会とも深めて、もしくは市長部局全体とも深めてこうしたキャリア教育を進めていきたいという思いを強く込めているということです。

村川教育長 先ほど平谷委員が言われた大綱の効果といいますか、これは何に生きていくかというところで、やはり私も大きく期待しているところは、市長部局と教育委員会が連携という 1 つの言葉がある訳ですが、実際に機能して欲しいと思っていまして、例えば子育て支援につきましても、今教育委員会の方では「つろうて子育てプロジェクト」というキーワードで事業をしていますけど、地域のそれぞれ市民全体で役割を持ってもらおうというのが、取りあえず学校を中心にやってもらっている。ただ実際には、願いといいますか思いは、幼児期からの教育これを含めて取組んで欲しいと思っていまして、それが実際にはどうかというと保育所と幼稚園全て私立ということで、どっちかというところとよその地域より益田はかなり取り組みが非常に活発である、と言われているんですが。それがゆえに行政でも少し遠慮というか、あまり行政主体に動いてない、学校は行政主体でやっている、それが子育て支援いわゆる幼児期にどういう教育がなされているかということ、保育所あるいは幼稚園自体が動いている、のが強いと思っていまして、そうなるとうと保育所、幼稚園に行って育てられてる子以外の子、あるいはあまり関心の無い親、保護者にとって見ると、あまりそこに関わりのない人が結構いまして、格差が広がっていると言っているんですね、子育てに対して、一生懸命の親は、いろいろな会合に出たり研修会に出て段々充実している、さっき言われた子育て支援のいろいろ手立てがある、それに関わっている人は良いけど、そうでない人は負の連鎖みたいなことになって格差が広がっている、じゃあそれで良いのかということ、やっぱり学校も治していかないといけないと言う時に、今回の大綱づくりと言うのは、そこでじゃあ行政同士あるいは保育所・保育研究会とどうしていくんだとか、今ある課題を露わにしながら、じゃあどうやって取組むかという新たな取組みに繋がっていく良いきっかけではないかと私は思っています。

平谷委員 いろんな施策があるんですが、これの施策の策定に対して我々が何か意見とかする機会は無いのですか。大綱の中身です。

寺戸教育総務課長補佐 今日とは総合教育会議の中で大綱を決める会議です。今日は教育に関する大綱ですけども、教育部局の教育委員会の中で議論は定例教育委

員会の中で十分出来ると思っていますし、定例教育委員会の中で議論したもので、市長部局と連携しないといけないものそれなりに話をしないといけないと思いますし、教育委員会の中で出来ることがあれば教育委員会で出来ると思います。総合教育会議の中ではなかなか出来ないと思いますので、逆に定例教育委員会に市長さんをお呼びすることがあり得ると思いますので、そういう時に話が出来ると思います。

平谷委員　この場で協議しようとは思わないのですが、折角こういう形になりましたので、他の市長部局さんの施策というのを我々が認識させていただいて、更になぜこういうことを取り込まれるのですかというご質問等もさせていただけたら有難いと思います。これをやった方が良くやった方が良くという理論ではなくて、逆に取捨選択することにも必要だと思っております。

寺戸教育総務課長補佐　今平谷委員が言われるとおり、総合教育会議は基本的に随時するものではないということに法律はなっておりまして、緊急時とか大綱策定時とかになっておりますが、教育委員会の方から市長さんに向かってですね総合教育会議を開いてもらうということも出来ます。それで市長さんについては、教育委員会が総合教育会議を開いてと言っても、するしないは市長さんの判断になりますが、重要な案件についてはそういう対応が出来ると思います。

平谷委員　総合教育会議のことではなくて、この具体的な中身を。という話なので。

大畑社会教育課長　そういう場合でしたら、意見聴取者を定めていただいて、そこに関係部局の担当課をお呼びすることが出来ますので、その場で市長さんと教育委員さんの方からこの事業についてはもっとこう出来ないとかの質問をされたりとか、ということは可能ですので、教育委員会よりも総合教育会議の方が他部局をお呼びやすいと思います。

山本市長　それで、権限がここですよどこですよということは言うべきではないのですが、この総合教育会議もしくは教育大綱の意味合いというのは、大綱はそれぞれが協議・調整して、市長部局が行うもの教育委員会が行うものもしくは連携して行うものを定めます。定めた後は、それぞれ所管のものを、教育委員会は教育委員会が執行する、市長部局は市長部局が執行するというもので、本来はまた別のものになるということなんですよ。ただ今回いろんな議論をいただいておりますので、平谷委員さんがおっしゃいましたように、じゃあここであげられた市長部局の事業はどうなっているんだ。という関心をお持ちになるのはごもっともだと思います。従ってそういったことは、ぜひあげていただいて、総合教育会議になると思いますが、ぜひ市長部局としてもご意見いただいて照らし合わせ機会をいただけたらと思います。

平谷委員 何度もすいません。この大綱に基づいて絞り込まれたこの中身の評価というのは、どのようにされるのでしょうか。どのような頻度で、どのような形でされるのでしょうか。

山本市長 それは、市長部局も含めてですか。

寺戸教育総務課長補佐 今のことですが、教育委員会自体には外部評価をしていただいています

が、市長部局はやっていない。

山本市長 やっていないというか、それは議会で、例えば一般会計の決算審査という機会です。1年1回各事業の洗い出しをしてもらっています。

寺戸教育総務課長補佐 今この大綱が出来た分をどうするかということについては、今直ぐは考えていない段階です。

渡辺委員 今回こうした教育に関する大綱につきましてね、こうして社会教育といいますか生涯学習部分につきまして、やっぱり1つの新しい見方考え方が出来るのではないかなと私は期待をする。そうすると益田市の将来ということになる時に、子ども達をもちろん育てないといけないが、住んでいる人達もみんな幸せになっていくんだ、というところから進めていくと、今までと違った益田づくりが出来るという気がします。

山本市長 今のご意見も踏まえていきたいと思います。

島田教育総務課長 事務局の方から、まず鮎を使ったこのイメージを採用しても良いのかというご確認をいただきたいのと、今大きく2つに分けた中に更に2つずつ合計4つの項目として位置付けています。この分け方が良いのか。もし4つということになりましたら、文言で今取り敢えずの言葉で入れておりますので、もっとこういう言葉が良いよというヒントになるようなことをいただけたら、残された時間の中でご意見をいただけたらと思います。

山本市長 順不同で今のことについて、ご発言というか所感をいただけたらと思います。

村川教育長 鮎については益田の特産というか特色を高津川と共に出せるので面白いなと思っていますし、いろんな意見が出るとは思いますが、私は面白い表現だと思っています。一つは別のことで、右側の、学力向上と環境整備と教育と子育て支援の一体化で、中身は個別に出ていますが、これを皆さんが初めてみた時に、これは一つ一つ重要な事業なんです、全体を表した事業ではないんですよね、あくまでも。何か全体を表現する言葉があるのかどうか。水上委員さんにはこれ以上言葉を増やしたらいけないと言われてますが。例えば私自身が良く使っているのが、教育熱心な風土づくりという言葉であって、その中には幼児期から学校、今回で言えば高等教育機関も含めての一貫した教育の風土

を造るんだとか、あるいは学校地域家庭の連携した教育環境づくり、そういうようなことを言っているんですが、そういう全体イメージというものを言わなくても良いのかどうか、ふとこれを見た時に思いました。

山本市長 具体的に言うところの全体イメージですか。検討させていただきます。具体的に事務局から問いかけがありましたのは、この鮎の一生のイメージについてどう思われるかということと、2 ページ目のこの大綱の大きな分類、ひとが育つまち益田を 2 分類して、益田で育つ為の環境とふるさとで活躍する環境整備、それを更に 2 つに分けていく、こういう分類についてどうかということですが、いかがでしょうか。

平谷委員 鮎がいて良かったなあと思います。開口一番思いました、これを拝見して。すごく話題に富んだものになるので、この教育と密接に関係出来るというので僕は素晴らしいと思いました。その中で、それぞれの季節とかが入っていますが、これも子どもの教育を考えると子どもの季節というのも年代というのもあると思いますし、もう少し色とかでこの季節はどういうものが必要だろうとかいうのが、リンクするとかイメージ出来るように、言葉だけではなくて、ここと施策が色と繋がってぱっと分かるように。季節ごとに取り組むべき課題というようなものでも良いのではないかと、感覚で思いました。でも一度持ち帰ってちょっとじっくりと。子どもさんを育ててひとが育つまち、ゆくゆくは育つまちっていうことをキーワードにして考えないと、ちょっとぱっとキャッチコピーを見た時にわからなかった、本当に。わかったのは、ひとが育つまち益田、これだけわかったんです。これはすごくシンプルでそっかーっと。でそこに子どもさんがどう育って来るのに何が必要かな、っていうのを見ると、ちょっとすごくだらだらっと長いこといっぱい書いてあるのでわからないなあ。整理できませんでした、これが結論です。すいません。

水上委員 私はとにかくすっきりを求めますが。小さいものが大きくなるのは普通ですから、上の方に完成品があって、何か下からこう、どちらなのかなって思って、鮎は私もぱっと見てさすが鮎かそれならばちり合うなという印象を受けました。ただこちら側が、せっかくの鮎を表現していく、ここの下の鮎の小さいのが薄らと書いてありますよね。それを使うのであれば、鮎が成長して大きな鮎になるとか、そういうのを 3 つの育つ為の環境と遡上と遡上後のところで何かやったらどうかなって。きっとほとんどの方が、鮎に例えたら、アッて思うと思うんですよ。元に戻ってくる益田に戻ってくるっていうことには、ほとんどの大人の方は繋がると思って、ああなるほどっていうようなことは思うと思いますが、けどもこの絵は難しすぎるという印象でした。

それと、繋ぎでもしそれがあんなら、大胆にもここのいろんな鮎が育つ云々という一節があるじゃないですか。こういうことを省いてでも、そこはきっと、書いてあれば余計理解出来るけど、都合上書いてなくても何か分かるんじゃないかなという感覚があるので、それよりも下のところをもっと分かりやすく、視覚に訴えるというのはすごく大事なのだと思います。そんな中で、ぱっと見た時は、ひとが育つまち益田がとにかく開いた時には目に入って、この4つの白抜きの字は目に入りますけど、ここは一息つかないと読まなかったです。自分自身が最初にいただいた時に。こっちも字がいっぱい書いてあるなと思って、というのが本当の正直な感想でした。

平谷委員　これは鮎の一生なんですけど、親鮎がいて親鮎が子どもを育てて、そこで河川というのは行政の方であったりするのかもしれませんが、河川をどう整えていくとかですね、そういうイメージがあって、下界に出て、これはもう外に出ていく都会に出ていくのかもしれませんが、高等の学びに出ていくと思うのですが、そういうので又戻って来て、下界がそういうところとリンクさせるとかは分かりませんが、もう少し意味合いを持ったように表現されてイメージ出来れば、もっと素晴らしいのではと思ったのですが。そこで子ども達だけを見るのではなくて、親も見つめていかなければいけないし、我々含めて市長部局で開催される場所はどこに関係していくんだ、というイメージも持たれたら良いんじゃないかなと思いますし、そういうものは全てこうイメージ出来るものではないかと思いました。ちょっと壮大な表現になりましたけど、それだけすごく良いなと思いました。

山本市長　となると、鮎のこのイメージは素晴らしいので、より分かりやすく、もう一ひねりして欲しいというご意見ですね。

水上委員　職員の方できっと優れた能力の方おられると思いますが、外注というかそういうのはもちろん予算が無いですね。

島田教育総務課長　現在のところ、予算的には無いです。

山本市長　だいぶ時間が経過しましたが、これだけはもう一言言っておきたいというのがございますでしょうか。事務局いかがですか。

島田教育総務課長　ありません。

山本市長　時間とは言え、非常に短い1時間半と言う時間の中で、たくさんご意見をいただきました。また、こちらの方からも今回作った素案の思いというのも十分伝えさせていただいたと思っております。今回を踏まえまして、第3回には更にいろんな思いを込めたものをご提示して、最終的にご理解いただければと思っております。それでは今後の日程としては、事務局お願いします。

島田教育総務課長　次回は5月26日、時間は15時からという予定になっております。

会場は同じくこの大会議室ですのでよろしくお願いいたします。

山本市長 それでは次回日程は今説明したとおりでございます。今日は本当に
活発なご議論いただきましてありがとうございました。以上で第2回
総合教育会議を終了いたします。

終了時間 14時59分

平成 年 月 日

益田市 市長

益田市教育委員

益田市教育委員